

令和 8 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
現代の国語	総合ビジネス科・2年	3		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 改訂版 高等学校 現代の国語（数研出版） <input type="checkbox"/> 傍用参考書 五訂版常用漢字オールクリア（尚文出版） <input type="checkbox"/> 傍用参考書 力をつける現代の国語（数研出版）
-------------	--

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能をICTや辞書、補助教材を用いて身に付けるようにする。	協働的かつ対話的な活動をとおして論理的に考える力や、深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	各種検定試験の受験や作文コンクールへの主体的な参加を促しながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	40%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [知識・技能] ・社会生活上、必要な国語の知識や技能について理解し、活用することができる。 ア言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。 イ常用漢字の読み書きに慣れ、文章の中で使うことができる。 ウ実社会で必要な語句の量を増やし、その構造や用法等について理解し、実際に活用することで、語感を磨き語彙を豊かにする態度を育むことができた。</p>	<p>B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・自分を取り巻く環境や状況について客観的かつ論理的に思考を重ね、他者と伝え合うことで更に思考を深め、周囲への共感的態度を涵養する。 ア主張と論拠など情報と情報との関係について理解していること。 イ個別の情報と一般化された情報との関係について理解していること。 ウ推論の仕方を理解し使うことができるようになること。 エ情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 オ引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。</p>	<p>B 評価の規準 [主体的に学習に取り組む態度] ・社会のさまざまな話題や課題に幅広く関心を持ち、言葉をとおして自他の存在について理解を深めようとしている。 ・粘り強く本文の要点を把握し、学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。 以下の事柄を評価対象とする。 ・言語活動 ・提出物(提出状況及び取組内容) ・各種検定試験への取組について、その成果が顕著であった場合</p>
<p>※定期考査, 単元別テストおよび漢字小テスト 「思考・判断・表現」分野は言語活動も評価対象とする。</p>		
<p>上記の内容について、取組や成果が特に顕著であった場合、A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	「コインは円形か」(佐藤信夫)	4	叙述をとらえ要旨を把握する。
5	水の東西 (山崎正和)	6	言葉の特徴や使い方,情報の扱い方を理解する。
6	ズームアップ「文化」		論の展開(対比, 言い換え等)をおさえ,要約する。 自国の文化のあり方について考えを持つ。
7	ズームアップ「芸術の価値とは」 話すトレーニング, 聞くトレーニング	5	スピーチ原稿を作成する。 聴衆を意識した話し方について学び,工夫して発表する。注意深く情報を聞き取る。 推薦された作品を味わい, 鑑賞文を書く。
8	「わらしべ長者」の経済学 (梶井厚志)	7	一般論と筆者の主張を分けて読解する。 語句の本文中での定義や文脈, 接続語に着目しながら要旨をつかむ。
9	人と自然の共生とはどういうことか (河合雅雄)	6	具体と抽象について理解し,読解に生かす。また挿絵や図の効用を理解し,目的に合わせて表現を工夫する術を知る。
10	「倫理と道徳」(品川哲彦) 探究の扉「『倫理一般』は存在しない」	6	本文中で指摘されている事象について,自身の周辺環境と比較しながら考察を深める。
11	(伊藤亜紗)		情報を関連付けて読み深める。
12	「時間と自由の関係について」(内山節)	5	近代と時間の関係性について理解を深める。 変化のきっかけや背景に目を向け読解する。 「時間」に関する様々な資料や本を読み,話し合う。
1	私有への欲望 (平川克美)	5	引用した箇所から筆者の意図を理解する。 インターネットや雑誌・書籍から,必要な情報を収集し,説明資料にまとめる。
2	夢十夜 第一夜 (夏目漱石)	7	文学的文章を読み味わい,漱石の「夢」の捉え方について理解する。
	「無意識を滋養する術」(ドミニク・チェン) 言語活動の実践「批評文を書こう。」		論の展開や引用に着目し,筆者の考えを理解し,筆者の「夢十夜」の捉え方について批評する。 批評文の書き方を知り,自分の好きな作品について批評文を書く。
3			

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
公共	全学科・2年	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 高等学校 改訂版 新公共（第一学習社） <input type="checkbox"/> 資料集 最新公共資料集（第一学習社） <input type="checkbox"/> 演習ノート 改訂版 新公共ノート（第一学習社）
-------------	---

科目の目標		
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現代の諸課題をとらえ考察し、洗濯・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、書士料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・まとめや課題に自ら取り組み、学習内容を理解している。 ・資料の読み取りができており、説明の補足等を適切にメモに残している。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・まとめや課題に自ら取り組み、自分の考えを整理できている。 ・級友と協力して取り組み、自分の考えを述べ、班員の考えを記述できている。	B評価の規準 [自己評価] ・取り組み態度を振り返り、おおむね良好な自己評価ができている。 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、級友と協力し提案や発表ができる。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモし、自分なりのまとめ方をしている。マーカーやアンダーライン等も工夫している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断する。		※居眠りや過度な私語等で周囲に迷惑をかける場合はC評価となる。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	5	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	1	①人間と社会のあり方についての見方・考え方
5	第3章 公共的な空間における基本的原理	4	①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割		6
6			③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範

	主題2 契約と消費者の権利・責任	2	⑥法をよりよいものにするための権利 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任
	主題3 司法参加の意義	2	①裁判所と司法
7	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成	6	②国民の司法参加 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政
8			⑥地方自治と住民福祉
9	主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	3 3	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和
10	主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題	3 3	①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題
11	主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界	5 5	①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ
12	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障	2 4	③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義と役割 ②金融のいま ①財政のしくみと租税
1	主題13 経済のグローバル化	9	②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障 ①国際分業と貿易

			<ul style="list-style-type: none"> ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き
2			<ul style="list-style-type: none"> ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	5	<ul style="list-style-type: none"> ①排出量取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
数学A	総合ビジネス科2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新 高校の数学A (数研出版) <input type="checkbox"/> 問題集 教科書学習ノート数学A
-------------	--

科目の目標		
<p>場合の数と確率，図形の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>場合の数と確率，図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○観点別目標の達成や取組の状況において</p> <p>「十分満足できる」状況と判断される場合「A」（点数での目安：7割以上）</p> <p>「おおむね満足できる」状況と判断される場合「B」（点数での目安：3割以上7割未満）</p> <p>「努力を要する」状況と判断される場合「C」（点数での目安：3割未満）と評価する。</p>		
<p>○知識・技能の評価問題（主に計算問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○思考力・判断力・表現力の評価問題（主に応用記述問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○授業に臨む態度等（日々の授業時）</p> <p>○課題（宿題）等の取組・提出状況（プリント・ノート等）</p> <p>○努力度・理解度の自己評価（到達度チェックテスト）</p> <p>※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで評価する。（例：CCA という評価はほぼありえない。）</p>
<p>○定期考査の点数だけでなく、日々の授業の取り組みでも評価します。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	【数学I】 第5章 データの分析	4	1. データの整理 2. データの代表値
5		8	3. データの散らばり 4. データの相関
6	【数学A】 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	7	5. 仮説検定の考え方 1. 集合 2. 集合の要素の個数
	1 学期期末考査		
7		6	3. 和の法則と積の法則
8		2	4. 順列
9		7	4. 順列
10	2 学期中間考査		
		8	5. 組合せ
11	第2節 確率	8	1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率
	2 学期期末考査		
12		6	4. 条件つき確率 5. 期待値
1	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	6	1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心, 内心, 重心
2	3 学期学年末考査		
		6	4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線
3		4	7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
科学と人間生活	総合ビジネス科・2年	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 改訂版 科学と人間生活（数研出版）
------	--

科目の目標		
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>観察、実験等を行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p>	<p>自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [わかった・できた] ・ワークシートや課題に対して自ら取り組み、内容を理解したうえで<u>適切な答えを記入することができる。</u> ・実験において、仮説を立証するために<u>必要な操作を適切に行うことができる。</u></p>	<p>B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・授業の導入時や各種問いについて、<u>専門用語を用いて説明することができる。</u> ・実験において、知識や条件をもとに<u>仮説を立て、実験後に考察して結論を出すことができる。</u></p>	<p>B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動や実験に真剣に取り組み、安全・スムーズに進むようにするために、仲間と協力し考えながら、仮説を立てたり考察したりすることができる。 [課題に対する調整力] ・仲間の意見や考えを聞いたうえで、自分の意見や考えに反映させることができる。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>主な評価場面 ※座学・実験：「知識・技能」「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」 ※定期考査：「知識・技能」「思考・判断・表現」。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	序編 科学技術の発展	1	人間生活の歴史
		2	
		3	
	第2編 生命の科学 第2章 微生物とその利用	1	身まわりの微生物
	2		
	3	微生物とその発見の歴史	
		4	
5		5	発酵食品への微生物の利用
		6	
		7	乳酸発酵とアルコール発酵
		8	
6		9	医薬品への微生物の利用
		10	
		11	生態系における微生物
		12	
		13	
		14	環境の浄化と微生物
		15	
7	第3編 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用	1	光の色
		2	
		3	光の直進と反射
		4	
		5	
8		6	光の屈折と全反射
		7	
9		8	光の分散と散乱
		9	
		10	
		11	光の回折と干渉
		12	
		13	電磁波
		14	

10		15	電磁波の利用
	第1編 物質の科学	1	金属と人間生活
	第1章 材料とその利用	2	
		3	身のまわりの金属と製錬
		4 5	
11		6	金属のさびとその防止
		7	
		8	プラスチックとその性質
		9	
12		10	プラスチックの成り立ち
		11	
		12	さまざまなプラスチック
		13	
		14	資源の再利用
		15	
1	第4編 宇宙や地球の科学	1	日本列島とプレート
	第1章 太陽と地球	2	
		3	地震のしくみと地震活動
		4	
		5	地震による災害
		6	
2		7	マグマがつくる火山と景観
		8	
		9	
		10	火山がもたらす恵みと災害
		11	
		12	水のはたらきと自然景観
		13	
	14	土砂災害と洪水	
		15	
3	終編 これからの科学と人間生活	1	課題研究の進め方
		2	

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
体育	2年普通科・探究科・総合ビジネス科	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技能] ・活動を通して技術の名称や 行い方、体力の高め方を理解 し、各種目特有の技能を身に 付けている。 ・課題解決の方法、協議会の 仕方、効果的な練習方法につ いて理解しようとしている。	B 評価の規準 [思考力・判断力・表現力 等] ・振り返りシートに毎時の 反省を記入し、自己評価を しようとしている。 ・活動の中で、自己や仲間の 動きを比較して良い点や修 正点を発見しようとしてい る。 ・仲間とともに楽しむため の活動方法やその修正の仕 方を見つけようとしている。	B 評価の規準 [主体的に学習に取り組む態度] ・授業に主体的に参加しようと している。 ・活動の目的を理解し、実践しよう としている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑 戦を大切にしようとしている。 ・危険の予測をしながら回避行動を とるなど健康・安全を確保しようと している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテス ト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	8	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	体づくり運動 球技（選択①）	4 4	体の動きを高める運動 ○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール

6 7	球技（選択①）	6	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
	体育理論	6	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保
8	球技（選択②）	2	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="checkbox"/> サッカー <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="checkbox"/> 卓球 <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
9	球技（選択②）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="checkbox"/> サッカー <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="checkbox"/> 卓球 <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
10	球技（選択③）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
11 12	陸上競技（長距離走）	10	20分間走・ペース走・ロード走

1	球技	6	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
	ダンス		現代的なリズムのダンス
2	ダンス	4	現代的なリズムのダンス 創作ダンス
3	ダンス	4	現代的なリズムのダンス 創作ダンス

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
保健	2年普通科・探究科・総合ビジネス科	1		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p>	<p>健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p>	<p>生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択、社会環境づくりが不可欠であることを理解しようとしている。 ・健康の保持増進には、個人のみではなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度、活動などが深くかかわっていることを理解しようとしている。	B 評価の規準 ・健康にかかわる原則や概念をもとに情報を整理し、自他や社会の課題を発見しようとしている。 ・生涯を通じる健康や健康を支える環境づくりについて自他や社会の課題解決方法について話し合ったりスライドにまとめたりして、筋道を立てて説明しようとしている。	B 評価の規準 ・授業に自主的に参加しようとしている。 ・役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。 ・話し合いやグループ活動に主体的に参加しようとしている。
※単元テスト、グループ発表の内容、スライドの作成など授業内での成果物も評価対象とします。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ライフステージと健康	1	座学
5	思春期と健康	1	座学、グループワーク
6	性意識と性行動の選択	1	座学
	妊娠・出産と健康	1	座学
	避妊法と人工妊娠中絶	1	座学、課題学習（グループワーク）
	結婚生活と健康	1	
	中高年期と健康	1	クラス内発表
	単元テスト	1	
	7	働くことと健康	1
8	労働災害と健康	1	座学、グループ活動
9	健康的な職業生活	1	座学、グループ活動
		2	クラス内発表
9	大気汚染と健康		

10	水質汚濁、土壌汚染と健康	7	座学、課題学習（グループワーク）
11	環境と健康に関わる対策		
12	ごみの処理と上下水道の整備	1	クラス内発表、単元テスト
12	様々な保健活動や社会的対策	1	座学
	健康に関する環境づくりと社会参加	1	座学、グループ活動
1	食品の安全性	1	座学
	食品衛生にかかわる活動	2	座学、グループ活動
	単元テスト	1	
2	保健サービスとその活用	1	座学、グループ活動
3	医療サービスとその活用	1	座学
	医薬品の制度とその活用	3	課題学習（グループワーク）
		1	クラス内発表

令和 8 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
音楽Ⅱ	普通科、探究科、総合ビジネス科、農と食の科学科、緑と水の科学科、社会福祉科	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 MOUSA 2 (教育芸術社) <input type="checkbox"/> 高校生の歌集 つどい
------	---

科目の目標		
<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p>	<p>個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱・器楽・創作で表している。	B 評価の規準 [よく考え、自ら表現意図を持っている] ・自己のイメージをもって歌唱、器楽表現ができてい る。	B 評価の規準 [主体的・協働的] [粘り強さ] [自分なりの工夫] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、発表ができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、実技試験で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5	【歌唱】 曲種に応じた発声の方法や個性豊かな表現について学び、歌おう。	6	①発声の工夫と表現 Alleluja/SUN/歩いて帰ろう/糸/ ハナミズキ 「ヴォイス・トレーニング」 ②楽譜の読み方・書き方 PreludeⅢ/楽典
5 6	【器楽】 ギターの独奏や弾き歌いを楽しもう	10	天体観測 愛のロマンス
	実技試験		

6 7	【鑑賞】 映画音楽	8	映画を彩る音楽 映画音楽について学び、映画や楽曲を鑑賞する。 映画「ハリーポッターと賢者の石」
8 9	【歌唱】 さまざまな歌唱表現を味わおう	8	独唱曲の特徴や性格を捉え、ふさわしい表現を工夫する。 誰かがちいさなベルをおす/浜辺の歌/ フニクリ・フニクラ/春へのあこがれ
10 11	【創作】 創作表現の探究 実技試験	8	旋律の雰囲気を変化させよう Happy Birthday to you 楽譜の読み方・書き方
11 12	【鑑賞・歌唱】 ミュージカルの鑑賞	8	ミュージカルやA. ロイド＝ウェバーについて学び、楽曲を鑑賞する。 歌唱：The Phantom of the Opera 鑑賞：ミュージカル《オペラ座の怪人》
1 2	【器楽】 器楽アンサンブルを楽しもう。 【鑑賞】 オペラ・アリア、作曲者について学び鑑賞しよう。	8	シンコペーテッド・クロック ラ・クンパルシータ
3	【鑑賞】 日本の伝統音楽について学び楽曲を鑑賞しよう。 1年間のまとめ	4	歌舞伎《京鹿子娘道成寺》 薩摩琵琶《川中島》

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
美術Ⅱ	探究科・2年	2			

使用教材	□美術2（光村図書）
------	------------

科目の目標		
<p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p>	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p>	<p>主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
33%	33%	34%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・題材に関する知識を学び取っている。 ・題材を表現するための道具を扱う技術、技法を理解している。 ・美術作品の良さ、作家の表現の意図や工夫を学び取ろうとしている。	B評価の規準 [よく考え、考えをまとめ、表現できた] ・題材の特徴を捉え、主題を考え、構想している。 ・構想をもとに素材の特性を理解しながら表現しようとしている。	B評価の規準 [粘り強さ] [自分なりの工夫] ・学習活動に真剣に取り組んでいる。 ・構想をもとに自分なりの表現を模索し、工夫しながら取り組んでいる。 ・他者の作品の良さを感じ、学び取ろうとしている。 ※作品の未提出や私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価になります。
※定期考査なし。授業態度、作品制作、提出物で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	オリエンテーション	1	・年間の目標や美術の領域を理解する
5	写真の形と色彩の単純化 「ポスタリゼーション」	14	・ポスタリゼーションを用いた美術作品の鑑賞 ・アクリル絵の具の特性と扱い方 ・平塗り技法の知識と習得 ・ポスタリゼーションに適当な写真の選定と効果的な構図の設定
6			・色面のグラデーションに合わせた色作りと着色について ・相互鑑賞

7	採集するように撮影する 「シリーズ写真撮影、編集」	5	<ul style="list-style-type: none"> ・写真家ベルント・ベッヒャー、ヒラ・ベッヒャーの作品鑑賞を通してシリーズ写真の表現意図や面白さについて学ぶ ・写真撮影の基本の知識や技術について学ぶ ・写真撮影 ・写真の編集方法を学び、ポートフォリオにまとめる ○相互鑑賞
8			
9	比べて鑑賞する 「自分が座りたい椅子」	14	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン史を代表するイスのデザインを鑑賞して作者の制作意図や工夫、面白さを感じ取る ・主題を決め、それが伝わるデザイン画を描く ・デザイン画をもとにマケットを制作する ・自分の椅子のデザインの狙いをプレゼンテーションにまとめ上げる
10	・椅子のデザインのデザイン画を描き、それをもとにマケット（模型）を制作する		
11	・デザイン画とマケットをもとに自分の椅子をプレゼンテーションする		
12	「日本美術史」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代までの日本美術の特徴を学び、日本美術が持つ、時代性、民族性、風土、宗教など他国の美術との相違点や共通点について考えや見方、感じ方を深める
1	素材と向き合う 「ダンボールでできた靴」 ～ダンボールシューズ制作～	15	<ul style="list-style-type: none"> ・靴のもつ歴史や様々な種類の靴の鑑賞を通して素材のもつ魅力や人の足に合わせた構造の工夫について学ぶ ・履いてみたい靴のデザイン画を構造と制作手順を考えながら描く ・デザイン画をもとにダンボールを活用し、素材の持つ構造や質感を生かしながら靴を制作する ・相互鑑賞
2			
3			

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
書道Ⅱ	探究科、総合ビジネス科・2年	2			

使用教材	□書Ⅱ(光村図書)
------	-----------

科目の目標		
<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p>	<p>主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。 ・単元に関する知識を学び取っている。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・用筆、運筆、字形を構想し工夫し、相手に伝えることができている。 ・全体の調和や目的に則した表現形式など、意図に基づいて構想・工夫し、相手に伝えることができている。	B 評価の規準 [主体的] ・書の学習を通して自らの創造的な力を高めようとしている。自らの感性を高め、書の伝統と文化に親しもうとしている。 [粘り強さ] ・表現を模索し、工夫しながら取り組んでいる。
※定期考査は実施しません。 提出された作品やワークシート、授業態度で評価します。		※作品やワークシートの未提出、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人は C 評価となります。
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	オリエンテーション	1	・書道Ⅱの1年間の学びを知る。
	【漢字の書】 篆書の学習	2	・篆書の成立 ・篆書の特徴
5	篆書の臨書 ・「泰山刻石」	5	・「泰山刻石」の学習と臨書 字形は、おおむね縦長で左右相称 横画は水平、縦画は垂直 転折は丸く滑らか 起筆は蔵鋒 送筆は中锋で線の太さは均一 ・篆書での創作

6	<p>隸書の学習</p> <p>隸書の臨書</p> <p>・「乙瑛碑」</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隸書の成立 ・ 隸書の特徴 ・ 「乙瑛碑」の学習と臨書 字形はおおむね扁平 横画は水平で等間隔 起筆は蔵鋒 送筆は中鋒 波磔がある ・ 隸書での創作
7	<p>【篆刻】</p> <p>篆刻の学習</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篆刻について ・ 印稿を考える ・ 刻す ・ 押印 ・ 鑑賞
8			
9			
10	<p>【漢字仮名交じりの書】</p> <p>漢字仮名交じりの書の創作</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片仮名での表現等を用いた自由創作 ・ 風景を書で表現する。 ・ タブレットを使用した作品制作
11			
12	<p>【漢字の書】</p> <p>漢字創作の学習</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習古典をもとにした漢字作品の創作 ・ 半切2分の1を使用した作品制作
1			
2	<p>【実用書式】</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常に生きる書表現 身近にある筆で書かれたものを探し、書文化に親しむ ・ 日常筆記 履歴書 手紙
3			

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
英語 コミュニケーションⅡ	普通科理系・2年 総合ビジネス科・2年	3			

使用教材	<input type="checkbox"/> Power On English Communication Ⅱ <input type="checkbox"/> Power On English Communication Ⅱ workbook <input type="checkbox"/> 英単語・熟語 Bricks 1 (いっぴな書店)
------	--

科目の目標		
英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域（聞くこと・読むこと・話すこと【やりとり】【発表】・書くこと）において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各レッスンにおける文法事項、文の形・意味・用法を理解できるようになる。基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につける。学習した用法を話し言葉において、適切な場面・状況で使う技能を身につける。	各レッスンの内容について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、学習内容について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる。	各レッスンの内容について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、学習内容について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりしようとする。 各課題について、自分のためになるように効果的に取り組む。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>[知識] 各レッスンにおける文法事項の文の形、意味、用法を理解している。</p> <p>[技能] 必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身につけている。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[思考・判断・表現] 必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。</p> <p>課題については、自力で取り組み、丸つけややり直しなどを主体的に行う。また、期日を守って提出する。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	Lesson 1 Play Me, I' m Yours	5	助動詞、受け身、S+V+C
	Sounds Interesting 1	1	目立たない音節
5	Lesson 2 Ethical Fashion	5	S+V+O+C
	Zoon in with コーパス 1	1	インターネットはコーパス
6	Lesson 3 One for All, All for One	5	完了形、仮定法過去
	Sounds Interesting 2	1	目立つ音節
7	Leeson 4 Vending Machines	5	関係代名詞（主格、非制限用法）
8	Lesson 4 Vending Machines	2	関係代名詞（目的格）
9	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	5	助動詞+受け身、S+V+C、S+V+O、 It seems that ~
	Essay Writing 1	1	エッセイの構成要素

	Zoom in with コーパス 2	1	副詞
10	Lesson 6 New Banknotes	5	It is said that ～、形式目的語、 助動詞 + have + p. p.
	Sounds Interesting 3	1	音のつながり
11	Lesson 7 Some Secrets about Colors	5	関係代名詞 (所有格)、同格の that、 前置詞+関係代名詞、関係副詞
	Zoom in with コーパス 3	1	パターンに注目
12	Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem	5	強調、関係代名詞(, which)、to have p. p.
	Sounds Interesting 4	1	リズム
1	Lesson 9 Flying after Her Dreams	2	譲歩、no matter how(where, when)
2	Lesson 9 Flying after Her Dreams	2	仮定法過去完了、分詞構文
	Sounds Interesting 5	1	イントネーション
	Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots	2	過去完了進行形、be + to-do
3	Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots	2	未来完了形、提案・命令・要求
	Sounds Interesting 6	1	弱形と強形

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
課題研究	総合ビジネス科・2年	2			○

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 なし <input type="checkbox"/> 副教材 なし
------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ地域経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

B評価の規準 ・生徒の興味、関心に関する日本の伝統文化に対する知識を口頭または記述によって表出する。 ・一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。	B評価の規準 ・知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを他者に表出する。	B評価の規準 ・自らの学習を調整しようとしているか。
※日誌に書いたメモをもとに作成したレポート、スライドを用いた発表によって評価する。	※他者に伝えるためのプレゼンテーションにおける工夫などによって評価する。	※日誌における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守等によって評価する。
特に成果があった場合はA評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・課題研究の学習内容について	1	・学習内容と評価について
	・研究内容の精査	2	・希望調査・調整
	・研究①	2	・各自の研究を進める
5	・研究①	8	・各自の研究を進める
6	・研究①	8	・プレゼンテーションソフトの活用
7	・第1回発表	4	・班内発表 傾聴者・表現者 ・資料作成、提出
8	・1学期の復習	2	・復習
9	・研究②	6	・各自の研究を進める
10	・研究②	7	・各自の研究を進める ・湧徳祭での発表準備
11	・研究② ・第2回発表	6	・湧徳祭での発表湧 ・班内発表 傾聴者・表現者 ・資料作成、提出
12	・研究のまとめ	4	・各自の研究をまとめる
1	・課題研究発表会	4	・校内発表 ・資料作成、提出 ・振り返り
2	・次年度への準備	3	・進路学習
3	・今年度の振りかえり	3	・まとめ ・次年度のテーマ設定

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修 科目	原則履修 科目
マーケティング	総合ビジネス科2年・ 情報類型選択	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 マーケティング（実教出版） <input type="checkbox"/> 準拠問題集 マーケティング（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 商業経済検定模擬試験問題集1・2級マーケティング（実教出版）
------	---

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p>	<p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 ・マーケティングに関する個別の事実的な知識を口頭または記述によって表出する。 ・一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。	B評価の規準 ・知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを他者に表出する。	B評価の規準 ・自らの学習を調整しようとしているか。
※定期考査や小テスト、実技テスト等によって評価する。	※定期テストやレポート、話し合いの場面等によって評価する。	※ノートや問題集における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守等によって評価する。
特に成果があった場合はA評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	introduction	3	○マーケティングを学ぶ意義を理解する。 ○現代市場におけるマーケティングの概要について理解し、現代市場の特徴と関連付けて考える。また、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む。
	第1章マーケティングの概要		
	1. マーケティングの歴史と発展		
	2. 現代の市場とマーケティング		
5	3. マーケティング環境の分析	8	○マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について理解する。 ○購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて考えることができる。 また、消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
	4. マーケティング・マネジメント		
	第2章 消費者行動の理解		
6	1. 消費者の心理と行動の関係	12	○市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
	2. 購買意思決定過程		
	3. 消費者行動に影響を与える要因		
6	第3章 市場調査	12	○市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
	1. 市場調査の概要		
	2. 市場調査の手順		

	3. 仮説検証の手順		○市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。
	4. 実態調査の方法		
7	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	7	○STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ○STP分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 ○STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
8			
9	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	10	○製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○製品政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案・実施、評価・改善をしている。 ○製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
10	第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	10	○価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○価格政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善をしている。 ○価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
11	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	9	○チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○また、その課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、その政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

12	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	9	○プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。また、その政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1	第8章 プロモーション政策 3. プロモーション政策の動向	7	○プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。また、その政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
2	第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング	9	○マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。 ○マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。
3	第9章 マーケティングのひろがり 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	4	○マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
観光ビジネス	総合ビジネス科・2年	3			

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版 観光ビジネス <input type="checkbox"/> 観光ビジネス 準拠問題集
------	---

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けるようにする。</p>	<p>観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、観光ビジネスに関する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。</p>	<p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度をもち、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
60%	20%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・単用の用語や事象について、幅広く教科書以外の文献等から知識や技術の習得ができた。 ・知識・技能の習得ができ、日常生活の事象との関連を推測できた。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・単用の用語や事象について、現状と課題の把握ができ、自分の意見として表現することができた。	B評価の規準 [課題や提出物が出せた] ・学習活動に真剣に取り組むことができた。 ・授業中の課題や授業評価や宿題等の提出ができた。 ・自分自身の意見だけでなく、他者の意見も聴き、総合的・創造的な判断ができた。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
※特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 観光ビジネスの概要	2	・観光ビジネスの担い手 ・観光ビジネスの特徴
	観光ビジネスの動向	2	・日本の観光ビジネスの動向 ・訪日外国人観光客増加の要因 ・訪日外国人観光客増加の要因
5	日本の観光政策	2	・日本の観光政策の概要 ・日本の観光立国への歩み
	観光ビジネスと地域	4	・地域の現状 ・地域の活性化と観光ビジネス
6	第2章 観光ビジネスの主な産業 旅行業	2	・旅行業の役割と種類 ・旅行業の特徴と業務 ・旅行業法と旅行業約款 ・旅行業と地域の関わり
	宿泊業	2	・宿泊業の役割と種類

			<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊業の特徴と業務 ・宿泊業の関連法規 ・宿泊業と地域の関わり
	旅客輸送業	2	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客輸送業の役割と種類 ・旅客輸送業の特徴と業務 ・旅客輸送業の関連法規 ・旅客輸送業と地域の関わり
	娯楽業	1	<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽業の役割・種類・歴史 ・娯楽業の特徴
	その他の産業	1	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の役割と特徴 ・飲食業の役割と特徴 ・土産物店の役割と特徴
7	第3章 観光ビジネスのマーケティング 観光ビジネスの顧客	4	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の概念 ・観光客の種類 ・観光客の行動 ・訪日外国人観光客の消費と行動
	観光ビジネスにおけるマーケティングの意義	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光マーケティングの目的と意義 ・デスティネーション・マーケティング
	観光ビジネスのマーケティング戦略	3	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ビジネスのSWOT分析 ・観光ビジネスのSTP分析 ・観光ビジネスのマーケティング・ミックス（4P政策）
8	実習	1	もしあなたが地域の観光マーケティング担当者になったら
9	第4章 観光資源の発見と活用 観光資源とは何か	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の概要 ・観光資源のひろがり
	観光資源の保護と保全	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の保護と保全の意義 ・保護や保全の方法
10	第5章 地方自治体の観光政策の概要	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光基本計画策定 ・地方自治体の観光政策の効果 ・地方自治体の観光主管部署の内容
	地方自治体の観光政策の実施内容	4	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信・提供 ・イベントや国際会議の活用 ・観光資源の市場化 ・観光資源の管理 ・観光客を受け入れる環境整備 ・観光に関する調査の実施と観光統計の作成
11	第6章 観光まちづくりとは何か	4	<ul style="list-style-type: none"> ・観光まちづくりの概要 ・観光まちづくりと地域資源

			・持続可能な観光まちづくりのために
	観光まちづくりと地域の活性化のプロセス	6	・地域の現状を知る ・観光振興策を立案する
12	発表	4	・観光振興策のプレゼンテーション
	実習	2	・地域の活性化と観光まちづくりの実践
1	実習	2	・RESASを使ってみよう
2	家庭学習		
3			

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
ビジネス法規	総合ビジネス科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 ビジネス法規（実教出版） <input type="checkbox"/> ワークブック ビジネス法規準拠問題集（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 全商商業経済検定模擬試験問題集（実教出版）
-------------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
60%	20%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [理解できた・完成した] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・法律条文の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、適切に整理できている。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・仲間と協力して取り組み、自分や班の考えを記述できている。	B評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 法の概要	1	・ビジネスを適切に行うための法の役割について理解する。
	1節 ビジネスにおける法の役割	2	・ビジネスを円滑に行うことができるようにするため、経済のグローバル化、情報化・サービスの多様化、規制緩和など経済環境の変化に伴って法規の改正などが行われている現状について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	2節 法の体系と解釈・適用	2	・法が憲法を最高法規として体系的に存在していること、一般法、特別法、公法、私法など法の分類及び法の解釈と適用の考え方について扱う。
5	第2章 権利・義務と財産権	2	・権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて理解する。
	1節 権利・義務とその主体		
	2節 物と物権・債権		

	3節 知的財産権	2	<ul style="list-style-type: none"> ・特許権、実用新案権、育成者権、回路配置利用権、不正競争防止法による保護、デザインやマークなどに関する知的財産である意匠権、商標権など知的財産の種類とその権利について、法規と関連付けて理解する。
6		2	<ul style="list-style-type: none"> ・国際競争力の強化とビジネスを持続的に展開する際の知的財産の保護と活用の重要性及び知的財産を活用したビジネスの現状について学ぶ。
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権が侵害されたときの対抗手段について扱い、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	第3章 財産権の変動 1節 契約 2節 物の売買	2	<ul style="list-style-type: none"> ・契約全般について、また雇用契約、売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について、法規と関連付けて理解する。
7	3節 物の貸借	3	<ul style="list-style-type: none"> ・契約当事者の権利・義務関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について扱い、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
8	第3章 財産権の変動 4節 不法行為 5節 時効	2	<ul style="list-style-type: none"> ・契約当事者の不法行為や時効の各関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。 ・不法行為や時効など、具体的な事例を用いて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
9	2節 株式会社の特徴と機関	3	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の意義、株主の責任、株式の譲渡、資本と経営の分離及び株式会社の機関とその責任について法規と関連付けて理解する。
	3節 資金調達と金融取引	2	<ul style="list-style-type: none"> ・株式と社債の発行、金融機関からの借入及び金融商品取引法の概要を理解する。 ・資金の調達や運用と金融取引の現状・課題及び金融に関するセーフティーネットについて学び、具体的な事例を用いて、法規

			と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。 ・電子記録媒体の概要及び電子資金移動の現状・課題について理解する。
10	4節 組織再編と清算・再建	3	・組織再編の形態について理解する。 ・日本における企業の組織再編と清算・再建の現状・課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動を理解する。
	5節 競争秩序の確保	2	・競争秩序を確保する意義及びそのための企業活動の制限について、法規と関連付けて理解する。 ・競争秩序の確保の現状・課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し考察する学習活動に取り組む。
11	第5章 企業責任と法規 1節 法令遵守と説明責任	3	・法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。 ・企業統治（コーポレート・ガバナンス）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	2節 労働者の保護	2	・労働三権の概要及び労働三法、労働者派遣法など労働者の権利の保護に関する法規の概要について理解する。 ・労働時間、休日、休暇、就業規則及び労働災害に関する規定と考え方について扱う。 ・労働者の保護の重要性及び日本における労働者の保護に関する課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
12	3節 消費者の保護	2	・消費者基本法、消費者契約法、不当景品類及び不当表示防止法、特定商取引法など消費者の保護に関する法規の概要について理解する。 ・企業活動を展開する際の消費者の保護の重要性及び日本における消費者の保護の重要性及び日本における消費者の保護に関する

			る課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	4節 情報の保護	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法、不正アクセス禁止法、不正競争防止法など企業が扱う情報の保護に関係する法規の概要について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	第6章 紛争の解決と予防 1節 紛争の解決 2節 紛争の予防	2	<ul style="list-style-type: none"> ・公証制度の概要、和解、調停及び仲裁の目的、手続、効力並びに民事訴訟制度の概要について、法規と関連付けて理解する。 ・企業における紛争の予防と解決に関する課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。 ・国際的な紛争は国による法制度の違いが一因になっていることについて理解する。
1	第7章 税と法規 1節 税の種類と法人の納税義務	2	<ul style="list-style-type: none"> ・国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解する。 ・固定資産税など不動産に対する税の概要と税額決定の考え方及び内国法人と外国法人の納税義務について、法規と関連付けて理解する。
	2節 法人税の申告と納付	2	<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計と税務会計との関係、税務調整、法人税の申告と納付の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について、法規と関連付けて理解する
	3節 消費税の申告と納付	1	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税の仕組み、課税事業者と免税事業者の違い、課税対象、税額計算の考え方、消費税の申告・納税の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について法規と関連付けて理解する。

令和 8 年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
財務会計 I	総合ビジネス科・2年	4			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 商業727「高校財務会計I」 <input type="checkbox"/> 問題集 最新段階式 簿記検定問題集 全商2級 <input type="checkbox"/> 問題集 全商簿記実務検定模擬試験問題集 2級
-------------	---

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・適切な会計情報を提供するために個別の事実的な知識を口頭または記述によって表出する。 ・一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。	B 評価の規準 ・知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを会計処理の方法を用いて他者に表出する。	B 評価の規準 ・自らの学習を調整しようとしているか。
※定期考査や小テスト等によって評価する。	※定期テストやレポート、話し合いの場面などによって評価する。	※ノートや問題集における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守などによって評価する。
特に成果があった場合は A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計	2	・企業会計の意味と役割・株式会社制度の特徴・財務会計の機能・会計公準・会計の歴史
	第2章 企業会計制度と会計法規	4	・企業会計制度・会計法規・企業会計原則と企業会計基準・財務諸表の種類・財務諸表の構成要素
5	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし	4	・貸借対照表とその役割・貸借対照表の区分・貸借対照表の様式
	第4章 資産の意味・分類・評価	4	・資産の意味・資産の分類・資産の評価
	第5章 流動資産	4	・当座資産の意味・現金預金・受取手形・電子記録債権・売掛金・クレジット売掛金・貸倒見積高の設定・有価証券
	第6章 流動資産	4	・棚卸資産の意味・棚卸資産の取得原価と費用配分の原則・払出価額と期末棚卸高の計算・棚卸資産の期末評価・売価還元法・その他の流動資産

6	第7章 固定資産	4	・有形固定資産の意味・有形固定資産の取得原価・資本的支出と収益的支出・有形固定資産の期末評価・減価償却・固定資産の除却と買い替え・リース資産
	第8章 固定資産	2	・無形固定資産の意味・無形固定資産の取得原価
	第9章 固定資産	2	・投資その他の資産の意味・投資有価証券の期末評価・子会社株式・関連会社株式の期末評価
7	第10章 負債の意味と分類	4	・負債の意味・負債の分類
	第11章 流動負債	4	・流動負債の意味・引当金の意味・役員賞与引当金・保証債務
8	第12章 固定負債	4	・固定負債の意味・社債・長期借入金・リース債務・退職給付引当金・偶発債務
9	第13章 純資産の意味と分類	2	・純資産の意味・純資産の分類
	第14章 資本金	2	・株式会社の資本金・資本金の増加-増資・資本金の減少-減資
	第15章 資本剰余金	2	・資本剰余金の意味・資本準備金・その他資本剰余金・会社の合併
	第16章 利益剰余金	2	・利益剰余金の意味・利益準備金・任意積立金・繰越利益剰余金・剰余金の配当
10	第17章 自己株式	2	・自己株式の意味・自己株式の取得・自己株式の処分・自己株式の消却
	第18章 新株予約権	2	・新株予約券の意味・新株予約権の発行・新株予約権の行使
	第19章 貸借対照表の作成	4	・棚卸法と誘導法・貸借対照表の作成に関する原則・貸借対照表の配列・貸借対照表に関する注記・貸借対照表の作成例
11	第3編 損益計算書	2	・損益計算書とその役割・損益計算書の区分・損益計算書の様式
	第20章 損益計算書のあらまし		
	第21章 損益計算書の意味と基準	2	・損益計算の意味・損益計算の基準
	第22章 売上高	2	・売上高・工事収益
12	第23章 売上原価、販売費及び一般管理費	2	・売上原価・販売費及び一般管理費
	第24章 営業外収益・営業外費用	4	・営業外収益・営業外費用・経常利益・経常損失
	第25章 特別利益・特別損失	4	・特別利益・特別損失・当期純利益

1	第26章 損益計算書の作成	4	・損益計算書の作成に関する原則・損益計算書に関する注記・損益計算書の作成例
	第27章 その他の財務諸表	4	・株主資本等変動計算書・注記表・付属明細書
	第4編 その他の会計処理 第28章 役務収益・役務原価	2	・役務収益・役務原価
	第29章 外貨建て取引	2	・外貨建て取引の意味・為替レート（外国為替相場）による円換算・外貨建ての買掛金・売掛金処理
2	第29章 外貨建て取引	4	・外貨建ての前払金・前受金・決算時の処理・為替差損益の表示・為替予約
	第30章 税効果会計	4	・税効果会計の意味・貸倒引当金に関する税効果会計・減価償却に関する税効果会計・その他有価証券に関する税効果会計・繰延税金資産と繰延税金負債の表示
	第5編 財務諸表の活用 第31章 財務諸表のディスクロージャー	2	・企業と利害関係者・ディスクロージャー
	第32章 財務諸表の分析	2	・財務諸表分析の意味・財務諸表分析の方法・関係比率法による分析
3	第32章 財務諸表の分析	4	・構成比率法による分析・趨勢法による分析・実数法による分析
	第33章 連結財務諸表のあらまし	4	・企業グループと連結財務諸表・親会社と子会社・連結財務諸表の重要性・連結財務諸表の特徴

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
原価計算	総合ビジネス科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 原価計算（実教出版） <input type="checkbox"/> ワークブック 最新段階式簿記検定問題集 <input type="checkbox"/> 検定問題集 全商簿記実務模擬試験問題集1級原価計算新検定対応
-------------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。	(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [理解できた・完成した] ・【問題集等】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・原価計算は非常に難しい科目だが、解答集や仲間の解答を写さず独力で解いていく。	B 評価の規準 [発展した学習によく考え、取組み、説明できた] ・【教科書の問題】や【M 論題集】を仲間と協力して取り組み、自分の考えや不明なところを伝えることができる。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、問題集等の課題にじっくり取り組むことができる。 [自分なりの工夫] ・自分の到達目標を決め、予習復習、進んだ学習ができています。特に検定試験を受験しますので復習が必要です。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 原価と原価計算	1	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業の簿記 ・原価と原価計算 ・製造原価と総原価
	第2章 原価計算のあらまし	2	<ul style="list-style-type: none"> ・原価勝訴の分類 ・賦課と配賦 ・簡単な例による原価計算 ・原価計算の目的 ・原価計算の手続き ・原価計算の計算期間 ・原価計算の種類
	第3章 工業簿記-製造業における簿記-	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記の特色 ・製造活動を記録するために必要な勘定 ・工業簿記の基本的な仕組み ・記帳手続きの例示
5	第4章	2	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の分類

	材料費の計算		<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の仕入れ ・材料の保管 ・材料の消費 ・材料消費高の計算 ・予定価格法による場合の記帳
	第5章 労務費の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・労務費の分類 ・賃金支払高の計算 ・賃金消費高の計算 ・賃金以外の労務費
6	第6章 経費の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の分類 ・経費消費高の計算
	第7章 個別原価計算	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算の手続き ・原価計算表の記入方法 ・原価元帳と仕掛品勘定の関係 ・製造間接費の配賦方法 ・製造間接費の予定配賦 ・仕損品・作業くずの処理
	第8章 部門別個別原価計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別計算の目的 ・原価部門の設定 ・勘定の設定 ・部門別個別原価計算の手続き
7	第9章 総合原価計算	3	<ul style="list-style-type: none"> ・総合原価計算の特色 ・総合原価計算の種類 ・単純総合原価計算 ・平均法による月末仕掛品原価の計算 ・先入先出法による月末仕掛品原価の計算 ・単純総合原価計算表と記帳法 ・等級別総合原価計算表 ・組別総合原価計算
	第10章 工程別総合原価計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算の意味 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳法
8	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	2	<ul style="list-style-type: none"> ・減損の意味 ・減損の処理 ・仕損じの処理 ・副産物・作業くずの処理
9	第12章 製品の完成と販売	3	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成 ・製品の販売 ・販売費及び一般管理費
	第13章 決算と本社・工場間の取引	2	<ul style="list-style-type: none"> ・決算の手続き ・財務諸表の完成

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社・工場間の取引
10	第14章 標準原価計算（その1）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価管理と標準原価計算 ・ 標準原価計算の特色 ・ 標準原価計算の手続き ・ 原価標準の設定 ・ 標準原価の計算
	第15章 標準原価計算（その2）	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際原価の計算 ・ 原価差異の計算と分析 ・ 標準原価計算の記帳法 ・ 記帳と分析の例示
11	第16章 直接原価計算（その1）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利益計画と直接原価計算 ・ 直接原価計算の特色 ・ 直接原価計算の手続き ・ 直接原価計算による損益計算書
	第17章 直接原価計算（その2）	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ CVP分析 ・ 損益分岐図 発展学習①②
12	記帳練習例題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1例題
1	記帳練習例題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2例題
2	記帳練習例題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3例題
3	学習の振り返り	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定問題集

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
ソフトウェア	総合ビジネス科・2年 (情報類型)	4			

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版 ソフトウェア活用 <input type="checkbox"/> 全商情報処理検定模擬問題集 2級
-------------	---

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、表計算ソフトウェア、データベースソフトウェアなどビジネスの様々な場面で効果的な活用に関する知識と技術を身に付けること。	ソフトウェアの様々な知識、技術などを活用し、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見と、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うこと。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動におけるソフトウェアなどの活用に責任をもって取り組む態度を養うこと。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・単元の用語や事象について、幅広く教科書以外の文献等から知識や技術の習得ができた。 ・知識・技能の習得ができ、日常生活の事象との関連を推測できた。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・単元の用語や事象について、現状と課題の把握ができ、自分の意見として表現することができた。	B評価の規準 [課題や提出物が出せた] ・学習活動に真剣に取り組むことができた。 ・授業中の課題や授業評価や宿題等の提出ができた。 ・自分自身の意見だけでなく、他者の意見も聴き、総合的・創造的な判断ができた。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
※特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ビジネスにおけるソフトウェアの活用	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの活用と目的 ・ネット通信ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ・観光ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ・センシング技術とソフトウェアの活用
	ビジネスにおけるソフトウェアの進化	4	<ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0で実現する社会 ・AIを活用した社会の変化 ・探究問題
5	情報通信ネットワークの活用	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク構成とハードウェア ・ネットワーク利用とソフトウェア ・ネットワークの構築手順 ・ネットワークの設定手順
	情報資産の保護		<ul style="list-style-type: none"> ・リスクの管理 ・アクセス管理

		8	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルサーバー管理 ・認証サーバー管理 ・データの保護 ・セキュリティーポリシーの管理 ・演習・探究問題
6	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	8	<ul style="list-style-type: none"> ・統計の基礎 ・情報の集計 ・情報の分析 ・旅行業と地域の関わり
	表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理 ・回帰分析を用いた売上分析 ・日程管理 ・線形計画法 ・待ち行列 ・ゲーム理論
7	手続きの自動化	4	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きの記録と実行 ・マクロの登録 ・相対参照で記録 ・演習問題・探究問題
	ビジネスとデータベース	4	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なデータベースの活用と重要性 ・データベースとは ・表計算ソフトウェアとの比較 ・データベースソフトウェアの機能と役割
	データベースの作成と操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの作成 ・テーブルの作成とデータ入力 ・インポートエクスポート ・リレーションシップ
8	データベースの作成と操作	2	<ul style="list-style-type: none"> ・クエリの作成・種類 ・データの検索機能
9	データベースの作成と操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ファームの作成 ・レポートの作成
	手続きの自動化	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーフォームの作成 ・クエリの実行・ファームの表示・レポートの表示
	データベース構造	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本表と仮想表 ・データの正規化
	SQLの操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・SQL ・SQLの基本操作
10	業務処理用のソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアの導入のメリットと実例 ・グループウェアの実例と活用実習

	販売管理ソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・販売管理ソフトウェア導入のメリットと実例 ・販売管理ソフトウェアの実例と活用実習
11	給与計算ソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・給与計算ソフトウェア導入のメリットと実例 ・給与計算ソフトウェアの実例と活用実習
	システム開発の基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の概要 ・ソフトウェア開発モデル ・開発プロセスフレームワーク ・ソフトウェア開発手法 ・インターフェース設計
12	システム開発の基礎	4	<ul style="list-style-type: none"> ・テストと保守 ・探究問題
	アルゴリズムの基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムと流れ図 ・アルゴリズムの基本設計 ・さまざまなアルゴリズム
1	情報システム開発演習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携 ・表計算ソフトウェアによる情報システム開発
2	情報システム開発演習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフトウェアによる情報システム開発 ・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携演習
3	総合ビジネス科のプレゼンテーション実習	6	<ul style="list-style-type: none"> ・総合ビジネス科の紹介チラシ ・総合ビジネス科の紹介PV

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
スポーツⅡ	2年探究科・総合ビジネス科	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p>	<p>球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>	<p>球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技能] <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツⅡを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解している。 ・スポーツⅡの多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身に付けている。 ・体力や技能の程度、性別や目的、障がいの有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践しようとしている。 	B 評価の規準 [思考力・判断力・表現力等] <ul style="list-style-type: none"> ・映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示して伝えようとしている。 ・自然環境下で危機回避及び緊急時の対応方法についてより良い改善点を指摘しようとしている。 ・多様な参加者とともに運動するための調整の仕方や競技会の運営方法等について考えようとしている。 	B 評価の規準 [主体的に学習に取り組む態度] <ul style="list-style-type: none"> ・多様性・共生などのスポーツを通じた共生社会の実現に寄与する学習に意欲的に取り組もうとしている。 ・地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツの価値を高める学習に意欲的に取り組もうとしている。
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	スポーツⅡ（球技） ○ゴール型	2	○スポーツ概論 ・スポーツの効果的な学習の仕方
5	□サッカー	6	○ゴール型球技への多様な関わり方① ・ボール操作の動き
6	□バスケットボール		・ボールを持たないときの動き
7	○ネット型 □バレーボール □バドミントン	8	○ネット型球技への多様な関わり方① ・状況に応じたボール操作、安定した用具の操作 ・ボールを持たないときの動き
	○ベースボール型 □野球 □ソフトボール	2	○ベースボール型球技への多様な関わり方① ・バット操作やボール操作

	(各種目通年)		・ ボールを持たないときの動き
8	スポーツⅡ (球技) ○ゴール型	2	○スポーツ概論 ・ スポーツの多様な指導法と健康・安全
9	□サッカー	8	○ゴール型球技への多様な関わり方② ・ 状況に応じたボール操作と空間を利用した攻防
10	□バスケットボール		・ チームの作戦に応じた連携した動き
11	○ネット型	6	○ネット型球技への多様な関わり方② ・ 状況の変化に応じたボール、用具の操作と空間を利用した攻防
12	□バレーボール		・ チームの作戦に応じた連携した動き
	□バドミントン	10	○ベースボール型球技への多様な関わり方② ・ 状況に応じたバット操作と走塁 ・ 状況に応じた守備と連携した動き
	○ベースボール型		
	□野球		
	□ソフトボール (各種目通年)		
1	スポーツⅡ (球技) ○ゴール型	12	○ゴール型球技への多様な関わり方③ ・ 多様な楽しさを味わうことができる競技会運営の工夫
2	□サッカー		○ネット型球技への多様な関わり方③ ・ 多様な楽しさを味わうことができる競技会運営の工夫
3	□バスケットボール		○ベースボール型球技への多様な関わり方③ ・ 多様な楽しさを味わうことができる競技会運営の工夫
	○ネット型		
	□バレーボール		
	□バドミントン		
	○ベースボール型		
	□野球		
	□ソフトボール (各種目通年)		

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
スポーツⅢ	2年探究科・総合ビジネス科	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
-------------	--

科目の目標		
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技能] ・スポーツⅢを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解している。 ・スポーツⅢの多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身に付けている。 ・体力や技能の程度、性別や目的、障がいの有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践しようとしている。	B 評価の規準 [思考力・判断力・表現力等] ・映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示して伝えようとしている。 ・自然環境下で危機回避及び緊急時の対応方法についてより良い改善点を指摘しようとしている。 ・多様な参加者とともに運動するための調整の仕方や競技会の運営方法等について考えようとしている。	B 評価の規準 [主体的に学習に取り組む態度] ・多様性・共生などのスポーツを通じた共生社会の実現に寄与する学習に意欲的に取り組もうとしている。 ・地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツの価値を高める学習に意欲的に取り組もうとしている。
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技等）	2	○スポーツ概論 ・スポーツの効果的な学習の仕方
5	○武道	6	○武道への多様な関わり方① ・武道の伝統的な行動の仕方、礼法
6	□柔道	8	・相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技・連絡技・変化技への展開
7	□剣道 (各種目通年)	2	・相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技・応じ技への展開
8	スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技等）	2	○スポーツ概論 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全
9	○武道 □柔道	8	○武道への多様な関わり方② ・健康・安全の確保、用具の取り扱い

10	<input type="checkbox"/> 剣道	6	・相手の動きや攻撃防御に応じた攻防の展開
11	(各種目通年)	10	・相手の動きの変化に対応した攻防の展開
12			
1	スポーツⅢ (武道及び諸外国の 対人的競技等)	12	○武道への多様な関わり方③
2	<input type="radio"/> 武道		・多様な楽しさを味わうことができる競技 会運営の工夫
	<input type="checkbox"/> 柔道		・武道の推進・発展に向けた取り組み
3	<input type="checkbox"/> 剣道		
	(各種目通年)		